

## 第三部

# 支援者による事例発表

中村幸一郎

(やまぐち総合教育支援センター  
子どもと親のサポートセンター  
スクールソーシャルワーカー)

加藤美和子

(母子生活支援施設 沙羅の木 特別生活指導員)



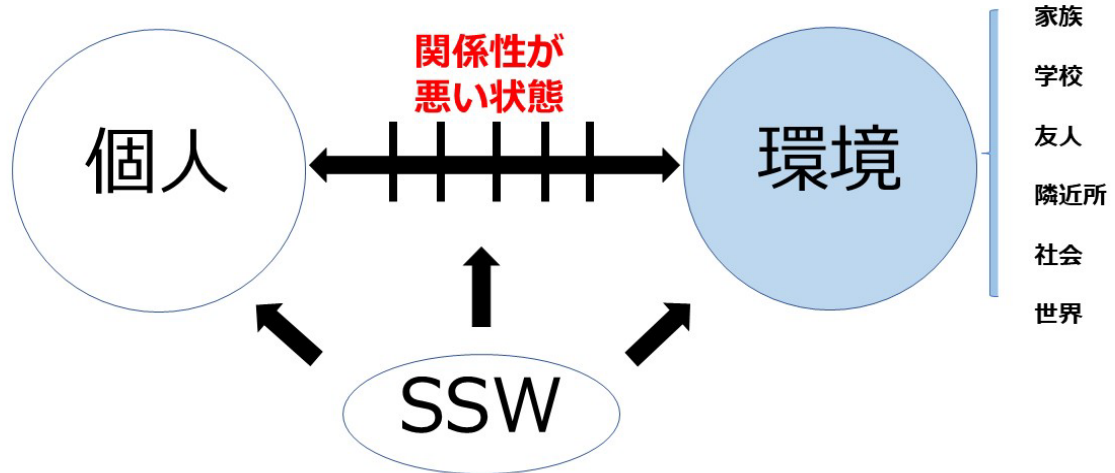
# ヤングケアラーへの支援

やまぐち総合教育支援センター  
子どもと親のサポートセンター  
スクールソーシャルワーカー 中村幸一郎

皆さんこんにちは。私はやまぐち総合教育支援センター、子どもと親のサポートセンターというところで、スクールソーシャルワーカーをしております中村と申します。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。それでは早速お伝えしていきたいと思ひます。ヤングケアラーへの支援についてです。

まず、スクールソーシャルワーカーという言葉、あまり聞かれたことがないんじゃないかなと思ひんですけど。皆さん、ちなみに「スクールソーシャルワーカーって聞いたことがある」という方、いらっしやいますか。ありがとうございます。3分の2ぐらいです。ありがとうございます。徐々に知名度が高まってきて、私も大変嬉しいところですよ。

# スクールソーシャルワークの考え方とは？ →個人と環境の関係性を調整する



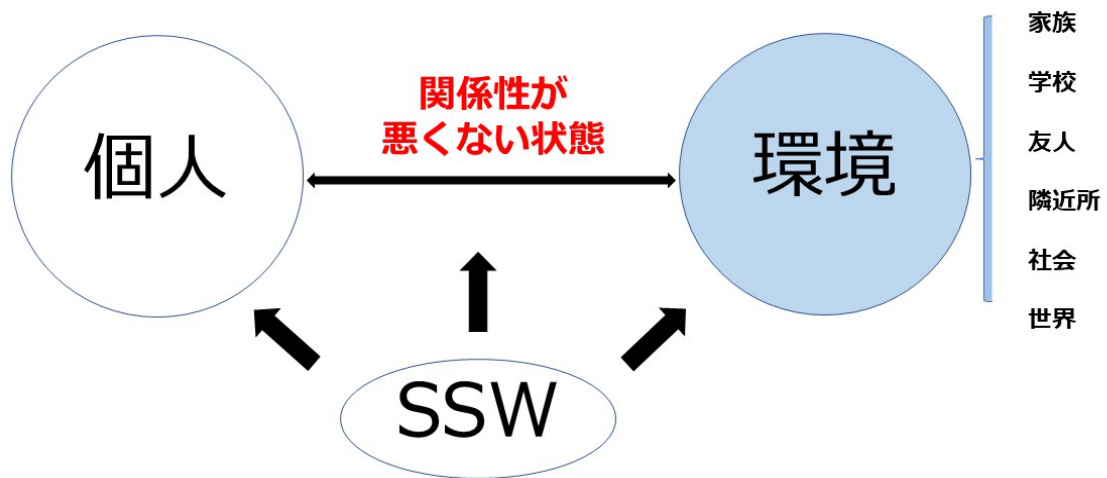
私たちスクールソーシャルワーカーは、スクールソーシャルワークという考え方で、支援を行っております。それはどういうことなのかというと、何か問題が起きた時に、それを個人の課題とせず、個人と環境の関係性が悪い状態が課題というふうに捉えています。

子どもを取り巻く環境が、今、大変複雑になっております。個人だけではやはり解決が難しいという課題もあります。

しかし、家庭内の課題は、そう簡単に解決したり、相談機関に繋がることもありません。

皆さんもこれまで生活をされてきて、ソーシャルワーカーに支援を受けたという方は、もしかしたら少ないのかもしれませんが。

## スクールソーシャルワークの考え方とは？ →個人と環境の関係性を調整する



ほとんどの社会保障制度は、基本的に自分から申請しないと受けられない仕組みです。

スクールソーシャルワーカーが介入した時は、個人に働きかけることもありますが、主に環境に働きかけたり、個人と環境の関係性に働きかけます。そして、特にこの関係性が悪い状態、ここはすごい課題なんですけど、ここをなんとかしていきたいと思います。

どの方も、みんなが納得するような、関係性がすごく良い状態っていうのはなかなかできないのですが、せめて関係性が悪くない状態を目指して、私たちは支援をしております。

**ご清聴ありがとうございました**

**短い時間ですが、ご清聴ありがとうございました。**

シンポジウムでは、障がいや病気のある家族の世話をしているヤングケアラーへの支援事例について紹介がありましたが、発表者の要請により、報告書への掲載は控えました。

# 事例発表

母子生活支援施設沙羅の木

特別生活指導員 加藤美和子

沙羅の木の職員の加藤です。

目の前にある、現状のお話を少しできればと思います。  
現在、赤い羽根共同募金の助成金を使って、実際に支援している家庭の1つをお話しします。



## 洗い物

まず、この写真を見てください。今からお話をする家庭の台所です。片付けている時もあるんですけども、と言っても片付けるのは子どもですが。私は訪問した時に、このような状態の時、この茶碗を洗ってシンクを片付けます。なぜ、この茶碗を洗うのか。それは、次にこの台所に立つのが子どもだからです。

ここの母は療育手帳の保持者です。仕事は長続きがしません。でも、仕事に行くときとすごく一生懸命に仕事をされる方です。そして、仕事をしている時は、夜遅くまで仕事をしたり帰ってこなかったりするので、家事は子どもたちが全てやります。家事ができていなければ、子どもたちは怒られます。この家庭は母子家庭で、高校生の長男、長女と小学生の次女、三女と一緒に暮らしています。



## エピソード →★

- ① 光熱費 ⇒ 金銭管理
- ② 制服 ⇒ 経済困難
- ③ 朝食・弁当作り ⇒ 家事
- ④ 妹の世話 ⇒ 子育て

「エピソード」と書いていますが、助成金を申請しようと思ったきっかけについてです。

まず、①です。ある日の夕方、この家庭を訪問した時、子どもたちだけで過ごしていましたが、子どもたちが寒いと言ってきました。春でしたが寒く、日は落ちて、電気が止まっていました。高校生の長女がお金の管理を任せ、電気代が支払えていなかったようです。この日は児童扶養手当の支給日で、長女がお金を下ろしに行き、家賃の支払いなどをしたそうです。電気は前々月の支払いがされていないことから、止まっていました。払い込み用紙を一緒に探しましたが見つからないため、母に電話したらどうかと言うと、怒られるだけだから我慢すると言います。しかし、このままでは母が帰ってきた時、電気が止まっていることで、また怒られてしまいます。

そこで、私が中国電力へ電話し、支払い方を教えてもらい、長女が下ろしてきたお金を持って、長女がコンビニで支払いました。電話をハンズフリーにして会話が聞こえるようにして、私と長女とで話をしましたが、電力会社の方にとってみれば他人と子供が話をしているので不信感しかなく、少し時間はかかりましたが、なんとか支払うことができ、電気がつきました。

その時、通帳は全て長女が持っていました。食費は、母と長女が話し合っていると聞いていましたが、母が買い物する時は、惣菜やジュースが多く、結局お金が足りなくなると長女のせいになることもよくありました。

②です。ある日、長女と小学生の次女、三女が学校を欠席していたので家を訪問しました。長女は、夏服への移行期間は終わったけれど、夏用の制服が買えないために学校へ行けないようでした。それにつられて、次女、三女も欠席していました。

長女は部活に入っていますが、中学1年生で買ったシューズが小さくて痛いけれど、まだそれを使っていました。

高校の水泳の授業で、水着は華美でなければ自由となっていました。長女は中学生の時のスクール水着を使い、それは次女と兼用で使っていました。必要な学校用品へお金が回っていませんでした。

また、経済困難の話ですが、また別の日、長男が発熱したがどうしたらいいかという連絡がありました。39度近くあると言います。

母が転職を繰り返し、新しい職場の保険証ができておらず、受診し、一時的に全額負担をするお金もありません。発熱はコロナウイルス感染の恐れがあり、私は接触することができません。

また、私が持っている市販の解熱剤はありますが、万が一体に合わなかった場合を考えると、むやみに渡すわけにもいきません。

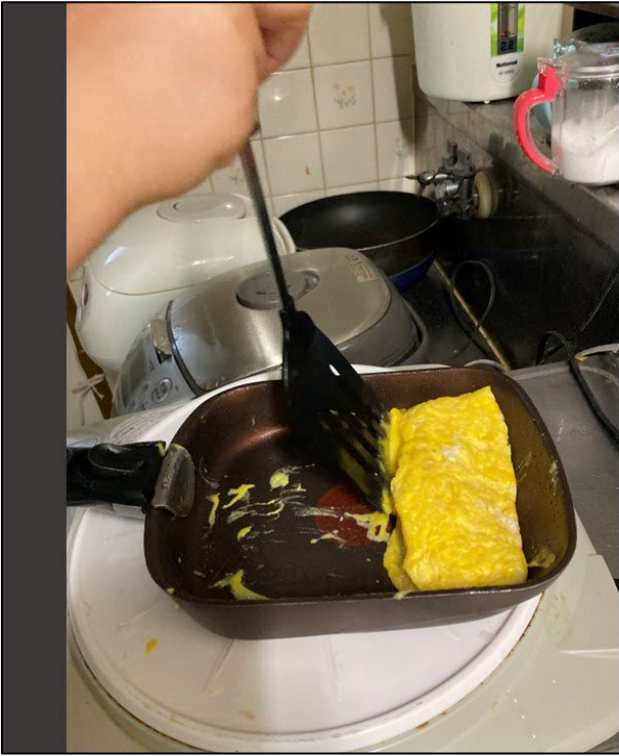
結局、フードバンクからいただいたレトルトと水分補給飲料を玄関に置いて帰りました。それから5日ぐらいして小学生も発熱し、何度か水分補給飲料を持って持参しました。

病院に行っておらず、検査も受けていないため、病名はわかりませんが、子供たちは自力で熱を下げました。

生活保護という選択肢もありますが、母は生活保護が嫌いなようです。



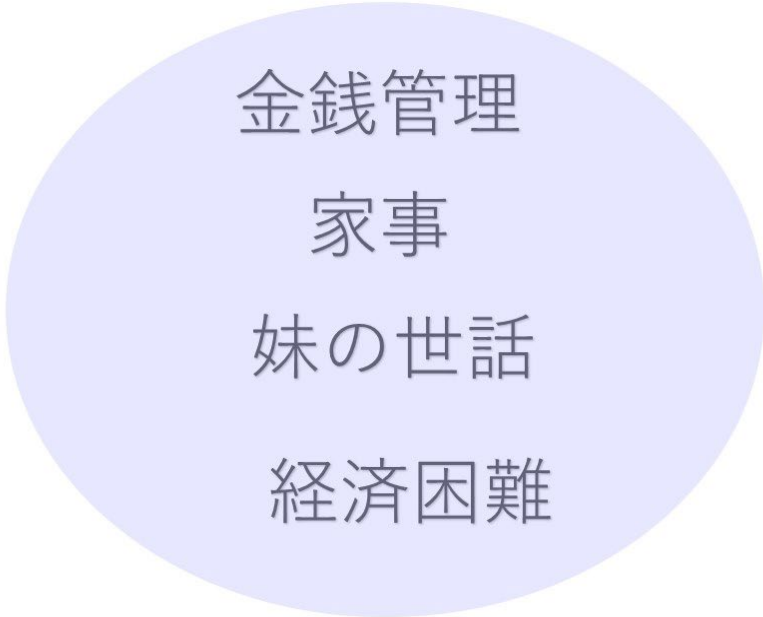
③、④になりますが、そんな生活の中で、朝、長女は自分と長男と母の弁当を作って高校の朝練に行きます。長男は小学生を起こして、学校へ行かせてから、自分が学校へ行っていました。長女は帰ってきたら、夜ご飯を作って子供たちだけで食べます。長女の帰りが遅い時は、小学生はお腹が空くので、自分でご飯を炊いて、おやつとしてご飯を食べることもあります。最近では、小学生もおかずが作れるようになって、とても上手になってきました。これが、小学生が作った卵焼きです。私より上手なんじゃないかなって思うような、こんな感じです。



小学生がおやつにご飯と卵焼きを食べたところです。

話せばきりがないほどエピソードはありますが、できることとして、朝、ご飯を炊いていって子どもたちと一緒ににおにぎりを作って食べさせたり、小学生を学校へ連れて行ったり、学校への提出物を一緒に書いたり、母の手続きや生活資金の相談に同行したりしています。

ただ、この家庭によく行くんですが、私が訪問して家の中に入っても、全員布団から出てこずに、ゴロゴロゴロゴロしたまま話をしたり、ということもよくあります。まあ、それはそれでオッケーです。



金銭管理  
家事  
妹の世話  
経済困難

このように、子どもが金銭管理、家事、下の子の世話、そして経済的困難、  
という家庭です。

令和4年度 赤い羽根×福祉の輪づくり運動  
特別助成プログラム Vol.2

「ヤングケアラー」を支える  
赤い羽根プロジェクト



社会福祉法人 山口県共同募金会

これらの状況から、長女が自分のことに集中できる時間を少しでも増やせたらと思い、この赤い羽根プロジェクトに相談して助成金をいただくことになりました。



弁当に使う  
冷凍食品



レトルト  
衛生用品

長女と話し合い、弁当に使いそうな冷凍食品と、子どもだけの時に簡単に食べられるレトルト食品、それと衛生用品を購入して渡すことにしました。







部活用品  
ジャージ  
絵具  
高校の制服  
中学校の制服  
など

そして、もう1つ、学校用品のリサイクルの仕組みを作りたいと思いました。  
現在、月に3、4回、食品と衛生用品を買って届けています。子どもたちは喜んで、袋から食品を出して冷蔵庫に入れます。「弁当に使える」と言って喜びます。子どもたちだけで食べることも日常的にあります。

# 連携

## 学用品リサイクルご協力のお願い

大切に使い不要となった学校用品を、これから必要とする児童へ渡せる仕組みです。「不要になった」等の話を聞かれましたら、下記へご持参いただくか連絡していただくと助かります。お預かりした物は大切に保管し、必要な児童へ渡していきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

### ご協力いただきたい物 (年度の途中で購入が必要となるもの) (例)

- ・部活用品 (ジャージ・ズボン・サッカーパンツなど)
- ・水着 ・裁縫道具
- ・習字道具 ・絵具
- ・エプロン ・傘
- ・鍵盤ハーモニカ本体
- ・上履き (新品、新品に近いもの)
- ・折紙 ・学生服 (特に夏用) など

- ※以下は新品のもの
- ・ポロシャツ
  - ・学用品 (鉛筆・ノート・自由帳等)



### お預かりできない物

- ・日常着
- ・日用品
- ・汚れがひどいもの等

### お預かり場所

- ・母子生活支援施設 沙羅の木
- ・山口市社会福祉協議会 南部支所  
(ふれあいセンターの敷地内)

上記いずれかへご持参いただくと助かります。

・主任児童委員もお預かりしています。

お問合せ  
母子生活支援施設 沙羅の木  
電話 083-976-5577  
(担当 加藤)  
Mail tiikisara0401@gmail.com

# 協力

# 民生 児童委員さん

また、リサイクルの仕組みづくりについては、主任児童委員さんに相談し、民生委員さんと連携して行っています。民生委員さんに、学校用品で不要になったものを集めていただき、地域の必要な家庭にお渡しする仕組みづくりを始めました。

これはいただいたものの1つです。

また、大学生にも声を掛けていて、数年前に自分が使っていたものをリサイクルしてほしいと伝え、その窓口として機能するよう、学内の1つのサークルに窓口のお願いもして、検討してもらっています。



## 福祉祭りにて

これは、祭りの時に、民生委員さんのブースで配っていただいたものです。主任児童委員さんがチラシを作ってくれました。このスライドは、主任児童委員さんと私のLINEです。

「中学生女子の制服いただきました」、「ありがとうございます」と、こんな感じです。高校の制服もいただいています。その他も、今、少しずつ少しずついただいています。

ちなみに、学用品は年度の途中で購入するものになっています。年度途中で購入するものは、お金の準備や意識がなく、子どもが母に言い出しにくいということ、支援をしていく中で感じたからです。

まだ集めている段階で、必要な家庭にお渡しできるのが来年になるかもしれませんが、民生委員さんが少しずつ、少しずつ持ってきてくださっています。

これからSNSを利用したり、民生委員さんと相談したりして、必要な家庭に渡していきたいと思っています。そして、この活動を紹介・周知していくことで、少しでも当事者の目に触れ、接触することができ、ヤングケアラーを見つけ出すきっかけの1つになればと思っています。このきっかけができれば、少しずつアウトリーチができていけばいいなと思っています。

## 母の価値観

子どもの時に家事⇒将来役に立つ

援助を受けた⇒自分が頑張った

子ども・・・



今、母は、現在、無職で家にいます。長男は学校をよく休みます。小学生の子どもたちは、ほとんど学校に行きません。時々家に行って、小学生を連れ出して学校へ送ります。そんな中でも、長女は休まずに学校へ行きます。朝練も行きます。ちゃんと部活をして帰ってきます。本当に頑張っているんだなって思います。


母はこんな価値観です。「子どもが小さい頃から家事をすると、大人になってから役に立つ」と言われます。母は長女をすごく頼っておられます。母は、「助けてほしい」と、自分の口から堂々と言われます。そして、助けてもらってできたことを、自分の力でやったようにお話をされます。そして、母は、子どもたちのことをとても大切にしているんだと話されます。子どもたちの方は最近になって、長女は家事を嫌がることがあります。学校を優先するようにもなってきました。「自分でやれよと、母に言って」と言ったこともあります。長男は母の言うことをよく聞きます。

## 母が大好き

そして、子どもたちは母のことが大好きです。家に行くと、本当にひつつきもつつきというか、もう本当に仲がいいのも事実です。

支援には正解がなく、何が正しいのか、これでいいのかもわかりませんし、私は、支援というよりお手伝いをしているような感じです。ただ、母には母の生きてきた背景や歴史があります。子どもたちもそれは同じです。決して否定することはできません。私の価値観を押し付けることもできません。子どもの考え方を否定せず、提案したり相談したりしながら、私は支援をしています。決して押し付けにならない支援をしていきたいと思っています。



行政 学校 児童相談所  
民生児童委員 主任児童委員  
社会福祉協議会   
パーソナルサポートセンター  
児童福祉施設 (母子生活支援施設沙羅の木)

また、この家庭は、行政や児童相談所が、私よりも長く関わっています。実際には、行政の方から「気になる家庭」ということで紹介された家庭です。そして、私の方でちょっと気になることがあれば、すぐに行政や児童相談所に連絡をします。連絡は取り合っています。小学校も、欠席が続くと連絡を取り合います。学校の先生と一緒に訪問することもあります。また、今年から主任児童委員さんにも見守りをお願いしたところ、制服がほころびたら補正してくれたり、登校していないようなら家を訪ねたりしてください。また、子どもたちが学校へ行った日は声を掛け、毎日のように様子を知らせてくれます。社協へ生活資金の相談をした時は、とても真摯に対応してくださいました。さらに、今はお金の管理についてパーソナルサポートセンターの方に関わってもらい、一緒に訪問してお金の相談を受けています。実際に、私はほころびの補正は苦手で、経済的な支援制度は分からないことがたくさんあります。到底一人ではできません。多くの関係機関が関わることはとても大切なことだと思います。連絡を取り、相談し、任せたり、任せられたり、子どもの見守りの目が多いことはもちろんですが、支援者が孤独にならないことも大切だと思っています。支援者自身が相談できる場所があり、その中の一人としてできることをする。支援者同士で声を掛け合い連携する。そして、心に余裕を持った支援ができるといいなと思っています。あとは、継続がとても大切だと思います。皆さんも思っておられると思いますが、1回何かをアプローチしてすぐに変わることはないのだから、とにかく継続ということは大切かなと思います。



ご清聴ありがとうございました

母子生活支援施設 沙羅の木 加藤

最後になりましたが、私の所属する母子生活支援施設は、様々な事情を抱えた母子が自立を目指して生活するところです。そして、その入所者の支援と同時に、地域のひとり親世帯を中心とした子育て世帯への支援を進めています。  
早いですが、ご清聴ありがとうございました。

